令和3年度 中原中学校

別紙１

１　研究の概要

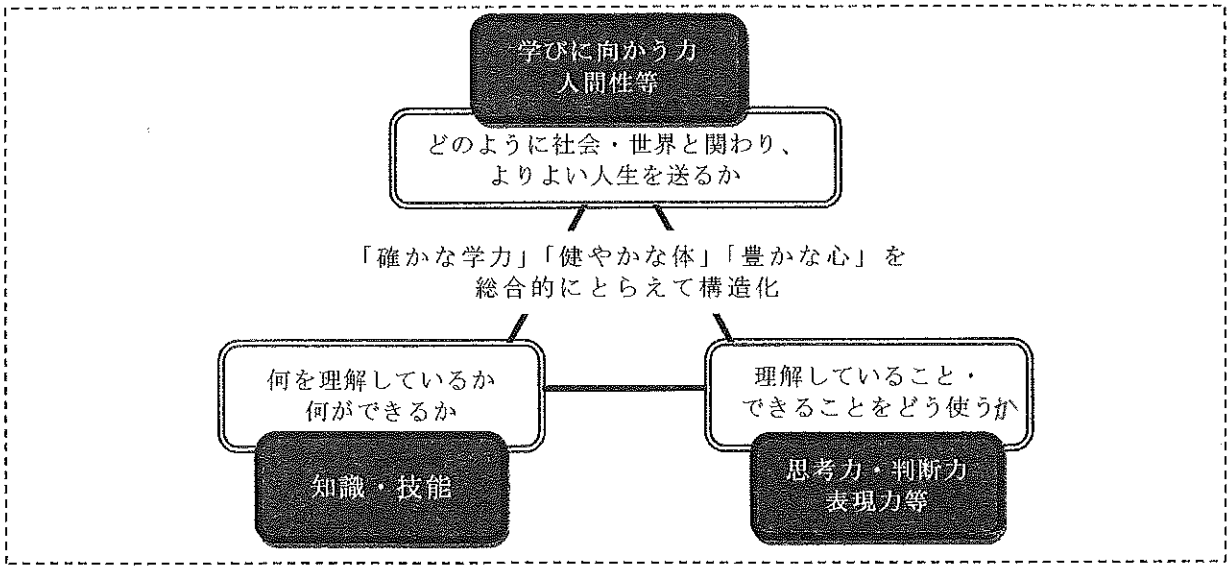
(1)　研究主題

研究主題	「学びに向かう力を高める指導方法の工夫」 ～評価方法の充実をめざして～

(2)　研究主題の設定の理由

中央教育審議会から平成28年12月21日に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」の答申が発表された。この答申を受けて、平成29年３月に学習指導要領が公示され、中学校においては令和３年度より全面実施される。答申では、学習指導要領が「学びの地図」として、「子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡せる」ための役割を果たすことが期待されるとしている。学習指導要領を「学びの地図」として機能させるためには、生徒の視点に立ち「何ができるようになるのか」を明確化し、育成を目指す資質・能力を整理していく必要がある。

また、今回の学習指導要領改訂では、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力について、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の３つの柱で整理された。（資料１）



資料１　育成を目指す資質・能力の３つの柱

これに伴い、学習評価についても、その充実を目指すために学習指導要領総則に新たに項目がおかれた*[1]。生徒の学習状況を的確に捉え、指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びへ向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方が問われる。とりわけ、生きる力を育成する３つの柱の１つである「学びに向かう力、人間性等」をどのように評価するかが重要になると考えられる。

そして、「学びに向かう力、人間性等」については、次の２つの側面があるとされている。すなわち、「感性・思いやりなど」と「主体的に学習に取り組む態度」である。このうち、「感性・思いやりなど」については、評価者の主観が入ってし

かるべきものであるため、観点別評価や評定にはなじまないとされている。一方、「主体的に学習に取り組む態度」については、現行の「関心・意欲・態度」に加え、「自らを調整する（自己調整学習）*2」という新たな見取りのポイントが加わる。つまり、生徒が自らの学習活動を客観的に捉え、調整しているかを見取る必要がある。そして、これらを適切に見取り、評価するためには、これまで以上に学習のめあてや見通しを子ども自身に考えさせたり、学習の最後に振り返りの場を設けて目標の達成状況を自己評価させたりするといった工夫が必要である。言い換えるならば、子どもの内面の変化を表出させる指導の工夫が求められるのである*3。

以上の理由から、今年度は「主体的に学習に取り組む態度」に特化した研究に取り組み、その評価方法の充実を図りたいと考え、本研究主題を設定した。

［注及び補足］

＊1　文部科学省（2018）『中学校学習指導要領解説　総則編』「2 学習評価の充実」p.91～94 によると、学習評価の充実のためには以下の2点に留意する必要がある。

（1）生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

（2）創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

＊2「自己調整学習」とは、学習者自身が学習計画を立て、進行状況をチェックし、その結果を評価するなど、自分の学びがうまく進んでいるかどうかを観察し、自分で調節していくことである。

＊3　ベネッセ教育総合研究所（2019）『VIEW21 教育委員会版 2019 Vol.3 シリーズ 学校現場と進めるカリキュラム・マネジメント』「子どもがかかわり、子どもに還る学習評価　要点整理」p.4

(3)　研究の目標

生徒一人ひとりの学習を促すための評価という視点をより一層重視し、指導と評価の一体化を図ることを通して、「学びに向かう力、人間性等」の育成に寄与することを目指す。具体的には以下の二点である。

①「主体的に学習に取り組む態度」の育成につながるリフレクションシート（仮）の作成

・生徒にとって、自らの学習の理解度や到達度が分かるものにする

・教師にとって、生徒の学習の定着度が分かるものにする、評価・評定に役立つものにする

②新学習指導要領に示されている各教科の目標に準拠した年間指導計画の作成

(4)　研究の内容

本年度の研究内容は主に以下の４つである。

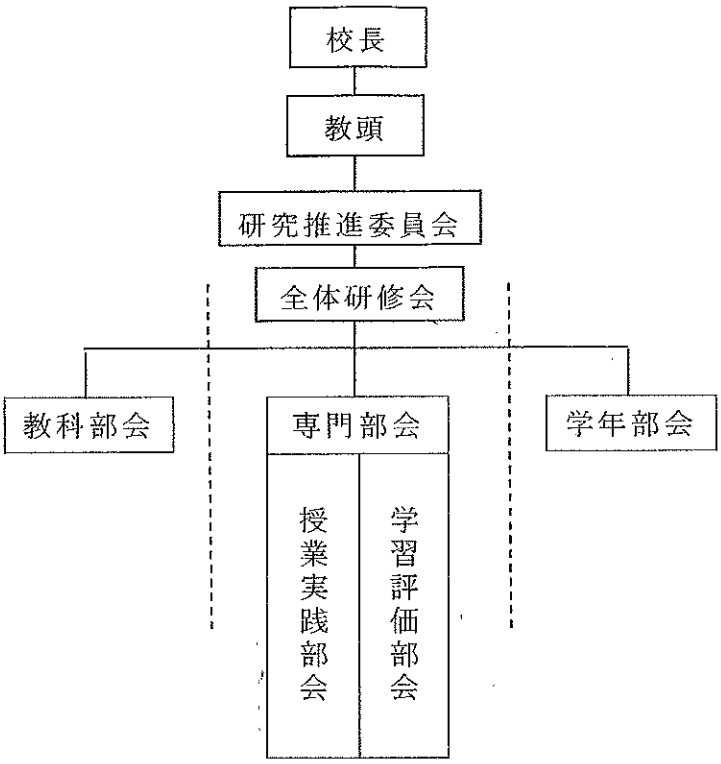
①　「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の研修及び協議

②　学習の計画・振り返り・把握ができるリフレクションシート（仮）の作成

③　生徒の主体性を引き出す授業や評価の開発・実践

④　評価を盛り込んだ年間指導計画の作成

（5） 研究組織



○ 研究推進委員会

・全体研修会で取り扱う研究内容について、事前に検討する。

・メンバーは、校長・教頭・教務・研究主任・研究副主任（部長兼）・各部部長とする。

・原則、校内研究会の前の月曜日に実施する。年間研究計画で実施日を決めておく。

○ 全体研究会

・研究内容について、協議を行う。

・先進校視察などの報告を行い、研究の充実を図る。

○ 専門部会

・「主体的に学習に取り組む態度」の育成に寄与する授業実践や学習評価の在り方、について、教科横断的に検討するため、２つの部会を設置する。

・全職員がいずれかの部会に所属し、各学年バランスよく所属するように留意する。

○ 教科部会

・年間指導計画の作成など、各教科に分かれて話し合う際に構成する。

・教科主任を中心に構成する。

○ 学年部会

・各学年の校内研担当教員を中心に、専門部会で協議された内容について、学年の職員間で共有する。

（6）研究計画

回	研究会	月日	内容	形態
第1回	研究推進委員会	4月 2日(金)	本年度の研究内容の確認 研究組織の決定	全体
	校内研究会	4月 7日(水)		
第2回	研究推進委員会	4月19日(月)	観点別評価の組み合わせ 検討と協議	全体
	校内研究会	4月21日(水)		
第3回	研究推進委員会	5月10日(月)	目標に準拠した 年間指導計画の作成	教科部会
	校内研究会	5月12日(水)		
第4回	研究推進委員会	6月14日(月)	講師招へいによる校内研修会 講師：＿＿＿＿＿＿(未定)	全体→ 専門部会
	校内研究会	6月16日(水)		
第5回	研究推進委員会	7月12日(月)	【授業実践部会】 ・見通し、ふり返りの視点を盛り込んだ指導案や授業の検討と構想 など 【学習評価部会】 ・リフレクションシートの検討、作成、修正	専門部会
	校内研究会	7月14日(水)		
第6回	研究推進委員会	8月 3日(火)		
	校内研究会	8月24日(火)		
第7回	研究推進委員会	9月13日(月)		
	校内研究会	9月17日(金)		
第8回	研究推進委員会	10月18日(月)	代表授業当日の流れ確認 代表授業指導案検討会	全体→ 専門部会
	校内研究会	10月20日(水)		
第9回	研究推進委員会	11月 8日(月)	第1回代表授業／授業協議会 (11/11) ※学校訪問を兼ねる	全体
	校内研究会	11月11日(水)		
第10回	研究推進委員会	12月13日(月)	研究の成果と課題の話し合い	専門部会→ 全体
	校内研究会	12月15日(水)		
第11回	研究推進委員会	1月17日(月)	研究のまとめ 次年度の研究主題について(提案)	全体
	校内研究会	1月19日(水)		
第12回	研究推進委員会	2月14日(月)	次年度の研究内容について(提案) 次年度の研究の話し合い	全体
	校内研究会	2月16日(水)		
第13回	研究推進委員会	3月14日(月)	次年度の研究の準備	全体
	校内研究会	3月16日(金)		